

レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」 K.255 —— ザルツブルクに滞在したイタリア一座との交流 ——

野口秀夫

1. はじめに

犬輔：レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」 K.255 はモーツァルト唯一のアルトのためのコンサート・アリアだと言われているけど、誰のために、どのような目的で作曲されたのだろうか。

鳥代：歌詞から判断するとオペラ・セーリアからのアリアのようね。どの台本から採ったのか、先行する作曲家は誰だったのかにも興味があるわ。

教授：幸い自筆譜と手紙があるから、その記述を調べることから始めてはどうかね。

2. 自筆譜及び手紙

鳥代：自筆譜はコーブルク城コレクションに V.1109.2 として保存されており、ネットで閲覧が可能^{注1}。楽譜の上には図1のとおりレーオポルト・モーツァルトの筆跡で「レチタティーヴォとロンドー風のアリア」「騎士アマデーオ・ヴォルフガング・モーツァルト氏による／ザルツブルクにて 1776.9. フォルティーニ氏のために」と書かれています^{注2}。

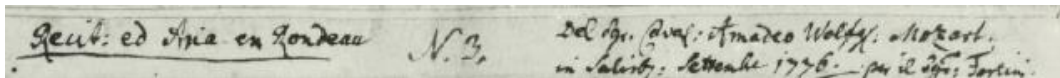


図1 レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」 K.255 自筆譜から

犬輔：1776.9 ザルツブルクで作曲ということは分かりました。フォルティーニ氏とはこの歌を歌った歌手のことですね。アルト用の歌ということですから、男声歌手であればカストラートなのでしょう。

教授：よく気が付いたね。その通りだ。次の手紙でそのことがはっきりするだろう。ヴィーンに定住したモーツァルトがザルツブルクの父宛ての手紙(1783.4.12)でこの曲について次のように書いている。「今度なにか送るつてがありましたら、(ザルツブルクでイタリア一座のカストラートのためにぼくが作曲した)アルトのためのロンドー[中略]も一緒に送ってください」。

鳥代：7年経ってもモーツァルトは覚えていて、レパートリーに加えてようとしていたのですね。

犬輔：イタリアの一座とは旅回りの劇団だと思われそうですが、どのような団体だったのでしょうか。

教授：それにはザルツブルクの宮廷顧問官ヨアヒム・フェルディナント・フォン・シーデンホーフェンの日誌^{注3}が役に立つだろう。

3. シーデンホーフェンの日誌

犬輔：1776.8.25 の欄にこう書いてあります。「ちょうど今日は、ローザ氏の一座による最初のフランス・コメディ《奇妙な女 La Donna Bizzarra》が公演された」。これはオペラではなさそうですね。

鳥代：因みに一座の最後の公演がいつなのかは分かるかしら。

犬輔：1776.10.6 に「劇場では、今日オペラ最後のスペクタクル《偽の愛に夢中 il finto Pazzo per amore》が上演される」とあります。蛇足ですが、午後には多くの人と会い、20:30 頃食事をとり、21:30 から翌日 4:30 まで、シーデンホーフェン自身の他にナンネルも(おそらく市庁舎での)仮装舞踏会に参加しています。したがって本人は実際にはオペラには行っていないようです。つまり行っていなくても上演記録として書かれているということです。

教授：大司教コロレードは古い舞踏会場を改築し 1775.11.16 に宮廷劇場 Fürstbischöfliche Hoftheater を公開した。演劇で柿落ししたが、1776 には音楽もやるようになったという。実際ベームやシカネーダーの一座がこの劇場を使っている^{注4}ことから、ローザ座の公演もここで行われたと考えられる。

鳥代：シーデンホーフェンはローザ座のメンバー名を挙げているのでしょうか。

犬輔：1776.9.29 に「バルミーニはコメディの下でヴァイオリン協奏曲を演奏した」とあり、1776.9.30 には「大聖堂のオフィスに行き、そこでカストラートのフォルティーニを聞いた」とあります。

鳥代：カストラートのフォルティーニが出てきましたね。大聖堂で宗教曲をザルツブルクの歌手に交じって客演したということでしょうね。

教授：モーツァルトがアルトのためのロンドーを作曲したのが、オペラへの挿入アリアあるいは代替アリアだとすれば、その演目が何であるかを調べる必要がある。

犬輔：承知しました。シーデンホーフェンの挙げているオペラの演目を整理してみましょう。なお、オペラと演劇の上演はほぼ半々で、演劇のタイトルもすべてイタリア語でした。

表1 ザルツブルクにおけるローザ座のオペラ上演演目

作曲者	ジャンル	演目	上演月日
ニッコロ・ピッチンニ	ドラマ・ジョコーゾ	《幸運な賭博師》 il Giocatore fortunato	8.27, 8.29, 9.3, 9.10, 9.22, 9.24, 9.27, 10.4
アンジェロ・デ・アンジェリス	ドラマ・ジョコーゾ	《二人のフランス人旅行者》 I due Viggiatori francesi	8.30
アントーニオ・サッキーニ	インテルメッツォ	《偽の愛に夢中》 il finto pazzo per amore	9.13, 9.19, 10.1, 10.2, 10.6
ルイーダ・ボローニャ	ドラマ・ジョコーゾ	《忠実な農婦》 La Contadina fedele	10.3

鳥代：《幸運な賭博師 il Giocatore fortunato》と《偽の愛に夢中 il finto Pazzo per amore》が人気を得た演目だったのですね。

犬輔：この中にモーツァルトが追加作曲をしたオペラがあるのか、リブレットの調査が必須です。

教授：それでは corago サイトで検索してみたまえ。

4. リブレットの調査

鳥代：あら、不思議ですね。上演場所を Salisburgo として検索しても 1776 には一件のリブレットもヒットしません。

教授：ザルツブルクで上演されたオペラのリブレットは殆ど残っていない。これは一般的にはナポレオン戦争で多くの資料が散逸したという話があるも、そもそも当該リブレットは印刷されていなかったのではないかと私は考えている。

犬輔：それではローザ座の他の都市での上演記録を辿ってみてはどうでしょう。フォルティーニとパルミーニが出演した作品を検索してみましょう…。表2の4件がヒットしました。そのうち2件がザルツブルクでの演目と同じです。

表2 フォルティーニとパルミーニが一緒に出演したオペラ (corago による)

作曲者	ジャンル	演目	時期	上演場所
ニッコロ・ヨンメツリ	ドラマ・ジョコーゾ	《巧妙な愛、あるいは聡明な若い女性》 Amore ingegnoso, o sia La giovane scaltra	1775 謝肉祭	パドヴァ
アンジェロ・デ・アンジェリス	(オペラ・リリカ)	《うかつものの博打うち》 L' astratto per il lotto	1775 春	パドヴァ
ルイーダ・ボローニャ	ドラマ・ジョコーゾ	《忠実な農婦》 La contadina fedele	1775 春	パドヴァ
アンジェロ・デ・アンジェリス	ドラマ・ジョコーゾ	《二人のフランス人旅行者》 I due viaggiatori francesi	1776 秋	インスブルック

鳥代：《巧妙な愛、あるいは聡明な若い女性》のリブレットの献呈辞の署名には「ピエトロ・ローザ、カーポ・コミコ」と書かれています⁵。

Umilifs., Devotifs., Obbligatifs. serv.
Pietro Rofa Capo-Comico.

図2 ヨンメツリ《巧妙な愛、あるいは聡明な若い女性》ピエトロ・ローザの献呈辞署名

犬輔：カーポ・コミコとは何のことですか。

教授：カーポはダ・カーポ（頭に戻る）にあるように「頭」のことだから、「喜劇頭（がしら）」つまり「喜劇座長」のことだ。

鳥代：リブレットに書かれている座員の名前を挙げておきましょう。エレナ・ローザがソプラノ（プリマ・ブッフア）で、おそらく座長の娘と思われませんが、2作目からエレナ・パルミーニと名前が変わります。アンジェラ・ローザがおそらく妻でコントラルト、フランチェスコ・フォルティーニはアルト・カストラート（プリモ・ウオーモ）、アントーニオ・パルミーニはテノール・ブッフオ、アンドレア・キアッピーニはおそらくテノール・アモローゾ、そしてカルロ・セラモンディはバス・ブッフオと思われ⁶。

犬輔：上演場所としてローザ座はパドヴァとインスブルックの間にザルツブルク興行を挟んでいたということになるんですね。

教授：ルードルフ・アンガーミュラーはシーデンホーフェンの日誌への注釈で次のように述べている。「ピエトロ・ローザは、1775にパドヴァとリュブリャナ、1776/77にクラゲンフルト、1778にゴリツィア、1780にウーディネで自身の劇団を展開した。パドヴァの台本では彼はカーポ・コミコと呼ばれ、リュブリャナではパンタローネとして登場した。ザル

ツブルクの聴衆はおそらく彼の公演があまり好きではなかったと思われ、治安判事は娯楽税を 1 公演当たり 2 グルデンから 30 クロイツァーに減額した」^{注7}。

犬輔：ザルツブルクの他にリュブリャナやクラゲンフルトに行っていますが、やはりそこでのリブレットが **corago** サイトに載っていないのは、**corago** でのリブレット調査だけでは不十分だということですね。

鳥代：でも少ない情報からなんとか答えを導き出しましょう。インスブルックのリブレットの巻頭言でピエトロ・ローザ座長は次のように述べていますよ。「先のやりがいのあるドランマ・ジョコーゾ《幸運な賭博師 *Giocatore fortunato*》にて、輝かしい場面に世間の共感を得たことは、《二人のフランス人旅行者 *I due viaggiatori francesi*》というタイトルの第二弾を提示する勇気を与えてくださいました」^{注8}。

犬輔：ほう、ザルツブルクでは《幸運な賭博師 *Giocatore fortunato*》が少なくとも 8 回上演されていて、座長も共感を得たと出来栄に満足していることから^{注9}、モーツァルトがこのオペラに挿入曲を書くチャンスはあったかも知れません。

教授：鋭い指摘だ。まさにその挿入曲がアリア「クラリーチェは私のいとこの妻になるはず」**K.256** だ。テノールの曲ゆえ、アントーニオ・パルミーニのために書かれたと言われている^{注10}。

鳥代：今回は **K.255** の調査だから別のアプローチが必要ね。上演の多さというキーワードはそのままにして、演目ではなく、上演場所で見てはどうかしら。つまり、表 2 で多くを占めているパドヴァのオペラ上演事情を調査するのよ。

犬輔：それに何の意味があるのかなあ…。

5. リブレットの上演場所調査

鳥代：1775 のパドヴァでのオペラ上演を表 3 にまとめました（表 2 の一部も再掲となります）。

表 3 1775 のパドヴァでのオペラ上演演目（corago による）

作曲者	ジャンル	演目	時期	場所
ニコロ・ヨンメッリ	ドランマ・ジョコーゾ	《巧妙な愛、あるいは聡明な若い女性》 <i>Amore ingegnoso, o sia La giovane scaltra</i>	1775 謝肉祭	パドヴァ オビッツィ劇場
リナルド・ディ・カプア	インテルメッツォ	《騎士ヒル氏》 <i>Il cavalier Mignatta</i>	1775 謝肉祭	パドヴァ オビッツィ劇場
ヴィチェンツォ・チアンピ	ドランマ・ペル・ムジカ	《愛の風刺画》 <i>L' amore in caricatura</i>	1775 謝肉祭	パドヴァ 新劇場
アレッサンドロ・グリエルミ	ドランマ・ジョコーゾ	《失意の老人あるいは美しいアウローラ》 <i>Il vecchio deluso, o sia La bella Aurora</i>	1775 謝肉祭	パドヴァ 新劇場
アンジェロ・デ・アンジェリス	(オペラ・リリカ)	《うかつものの博打うち》 <i>L' astratto per il lotto</i>	1775 春	パドヴァ 新劇場
ルイージ・ボローニャ	ドランマ・ジョコーゾ	《忠実な農婦》 <i>La contadina fedele</i>	1775 春	パドヴァ 新劇場
ミケーレ・モルテッラーリ	ドランマ・ペル・ムジカ	《アルサーチェ》 <i>Arsace</i>	1775 見本市	パドヴァ 新劇場
ジュゼッペ・ガッツァニガ	ドランマ・ジョコーゾ	《アルチーナ島》 <i>L' isola di Alcina</i>	1775 見本市	パドヴァ 新劇場

犬輔：1 年に 8 つもの演目が上演されているなんて驚きです。この多さには何か理由があるのでしょうか。

教授：パドヴァでは 12 演目のリブレットが残っている年もあり、多くのリブレットが印刷された都市であると言ってもいいだろう。したがって 1775 が特に多いという訳ではないが、この年の見本市は特別であった。年代記には次の通り記されている。「パドヴァ見本市はその独創的な取り組みと革新において常に際立ってきた。16 世紀には、サンタントーニオ大聖堂の広場で博覧会が開催され。[...] 2 世紀後、56 の取り外し可能な木造店舗を統合したオリジナルの記念碑的建造物を建設した。[...] 1775.10.6、新しいフィエラ・デル・サント *Fiera del Santo* [聖人の市] が発足した。ヴェネツィア上院の法令により、この市は関税が支払われない免税見本市となり、最も「高級な」商品が店頭に並べられた」^{注11}。パドヴァはヴェネツィア共和国の経済的に発展した都市であったのだ。

鳥代：《愛の風刺画》と《アルサーチェ》がドランマ・ペル・ムジカすなわちオペラ・セーリアですね。それぞれ謝肉祭と見本市の第 1 オペラだったと考えられます。

教授：諸君たちは知らず知らずのうちに核心に近づいてきた。レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」**K.255** はオペラ・セーリアからの歌詞のようだと言っているね。ここまで来てミケーレ・モルテッラーリ *Michele Mortellari* (c.1750–1807) 《アルサーチェ *Arsace*》のリブレットを調べないで通り過ぎることはできないだろう。

6. ミケーレ・モルテッラーリ《アルサーチェ》(1775) のリブレットから

犬輔：驚きました。K.255 と同じ歌詞がありました^{注 12}。リブレットに台本作者名はありませんが、ジョヴァンニ・デ・ガメッラ Giovanni De Gamerra (1743-1803) の『エピロ王メドンテ』が原作と思われます。ストーリーは、メドンテ王がセレーネとの結婚の準備をしていますが、彼女が自分を愛する将軍アルサーチェに感情を抱いていることに気づくというものです。メドンテは、最初はアルサーチェを支持して放棄を宣言しましたが、その後セレーネを逮捕し、処刑のために寺院に連行しました。アルサーチェはセレーネを救うために駆け付けますが、やはり逮捕されてしまいます。そして永遠の別れの瞬間がやって来ます。

表 4 モルテッラーリ《アルサーチェ》(1776) 第二幕 第 8 場

ATTO II. SCENA VIII. <i>Evandro, Arsace, e Selene.</i>	第二幕 第 8 場 エヴァンドロ、アルサーチェ、セレーネ。
Evan. Di Vassallo al dover, Signor perdona Quest' ufficio crudel...	エヴァンドロ 家臣の義務に従う者として、閣下 この残酷な職務をお許ください...
Ars. T' intendo, amico. Prendi. Teco io sarò. (<i>gli porge la spada.</i>)	アルサーチェ 分かった、友よ。 取ってくれ。君の言う通りにしよう。 (<i>彼に剣を渡す</i>)
Sel. Dunque è deciso? (<i>alzandosi con affanno.</i>) Dunque corri a morir?	セレーネ では、決まってしまったの? (<i>不安そうに起き上がる</i>) あなたは死を急ごうというの?
Ars. Sì, mio tesoro. Non v' è più speme. Io vado.	アルサーチェ そうだ、最愛の人。 もう希望はない。私は行く。
Sel. Arsace... Io moro!... (<i>sviene</i>)	セレーネ アルサーチェ... 私は死んでしまうわ!... (<i>気を失う</i>)
Ars. Cara... Oddio! ... Deh, resisti... Ceder conviene al Fato... Ombra felice. Tornerò a rivederti... Apri i bei lumi... E consola, deh, almeno in questo istante Con un pietoso sguardo il fido amante... Porgimi la tua destra... Un pegno estremo Del tuo affetto mi dona...	アルサーチェ いとしい人... ああ神様! ... ああ、待ってくれ... 運命に従おう... 幸せの影よ。 また会おう... 美しい瞳を開いてくれ... そして、ああ、少なくともこの瞬間だけは、 お前の忠実な恋人を哀れむ表情で慰めてくれ... 右手を差し出して... お前の愛情の 最後の証を私に与えてくれ...
Ah! Che la mia costanza or m' abbandona. Io ti lascio; e questo addio Se sia l'ultimo non so... Ah, chi sà, bell'idol mio, Se mai più ti rivedrò. Vengo.. oh ciel! .. Deh, lascia.. Oh pena! Per te sol, mio ben, pavento... (Un più barbaro tormento Giusti Dei, chi mai provò!)	ああ! 私の意志の強さが今では私を見捨てるのだ。 私はお前を残して行く、これで別れだ これが最後になるかはわからぬ... ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、 またお前に会えるのか。 私は行く... 天よ... あの人に残る... ああ、この辛さ! お前だけが心配だ、いとしい人よ... (これ以上の野蛮な苦痛を、 正義の神々よ、だれが味わったというのだ!)
(<i>parte fra Ministri, e soldati.</i>)	(<i>彼は大臣と兵士の間を抜けていく</i>)

鳥代：モーツァルトのレチタティーヴォ・アコンパニャートは「幸せの影よ Ombra felice」の部分からですが、科白の途中です。モルテッラーリはどのように作曲しているのかしら。

教授：同じくそこからがレチタティーヴォ・アコンパニャートだ^{注 13}。

犬輔：アリアの歌詞における厳密な異同を表 5 に示しますが、楽譜同士が全く同じ歌詞と言っていると思われます。

表 5 歌詞の異同

リブレットのアリア第 2 節	モルテッラーリ筆写譜	モーツァルト自筆譜
Oh pena!	Oh pene! と che pena! が混在	Oh pene!
Un più barbaro torment	il più barbaro tormento	il più barbaro tormento
最後の 2 行を括弧が囲む	括弧はない	括弧はない

鳥代：モーツァルトはモルテッラーリの《アルサーチェ》の楽譜から歌詞を採ったと考えられるのですね。

教授：だが、アインシュタインの説は異なっている。「モーツァルトはそのテキストと曲の構造を、敬愛するヨハン・クリスティアーン・バッハから取っている。バッハはソプラノ、オブリガート・オーボエおよびオブリガート・ピアノのために、無上の旋律的光沢と巧緻な仕上げを持つ一つのコンチェルト歌曲を 1774 に書いている」^{注 14}。確認したまえ。

7. J.C.バッハのカンタータ《リナルドとアルミーダ》のリブレットとの関係

犬輔：確かに J.C.バッハはカンタータ《リナルドとアルミーダ》WG20 を作曲するに当たって、モルテッラーリのアリアを手本にしています。《アルサーチェ》(パドヴァ 1775) でタイトルロールを歌ったジュスト・フェルナンド・テンドウッチ Giusto Fernando Tenducci (c.1730–90) が、このカンタータを歌ったことが関係しているらしいのですが、カンタータは 1774 ではなく、1778 の作品なので時系列が逆です。なお、このカンタータはレチタティーヴォとアリア「さあ、行こう／私はお前を残していく」WLG2 のみが残っており、残りの部分は散逸してしまったということです^{注15}。参考までに歌詞を表 6 に載せておきます^{注16}。

表 6 J.C.バッハの「さあ、行こう／私はお前を残していく」WLG2

<p>RECITATIVO</p> <p>Ebben, si vada, trionfi la ragione itene a terra, vergognosi trofei vili spoglie d'amor!</p> <p>Impallidisca, tremi l'Asia al mio brando e si cangino alfin per mio decoro le rose e mirti in glorioso alloro!</p> <p>Ma reo sarà Rinaldo di sì enorme viltà? Lasciarla, oh Dio, lasciarla in questo stato a ch'io mi perdo!</p> <p>Volgimi, o cara, almeno, pria ch'io parta da te, pria che m'uccida, il barbaro dolore, un sguardo di pietà, se non d'amore!</p> <p>ARIA</p> <p>Io ti lascio, e questo addio, ecc.</p>	<p>レチタティーヴォ</p> <p>さあ、行こう、理性を勝利させてくれ、 それを地面に置こう、恥ずべきトロフィー、 卑劣な愛の戦利品！</p> <p>アジアが青ざめ、私の腕の前で震えるように、 そしてバラとギンバイカが私の装飾として 輝かしい月桂樹に変わりますように！</p> <p>でも、リナルドはそのような卑劣な罪を犯すだろうか？ 彼女から離れる、ああ神様、 私が自分を見失った状態で彼女から離れるのだ！</p> <p>ああ、いとしい人、 少なくとも私がお前から離れる前に、 野蛮な痛みで私が死ぬ前に、 愛ではなくても哀れみの表情を 私に向けてくれ！</p> <p>アリア</p> <p>私はお前を残して行く、これで別れだ、etc.</p>
--	---

鳥代：ハイドンの《アルミーダ》にも同様のレチタティーヴォがありリナルドが歌うので、J.C.バッハの場合もカストラート・ソプラノが歌うリナルドの歌詞ということになります。

犬輔：アリアの歌詞はモルテッラーリ、モーツァルトとほとんど同じですので省略しました。

教授：J.C.バッハが手本となったという説は否定されたが、さらにはモルテッラーリに《見棄てられたディドーネ》(フィレンツェ 1772) があり、《アルサーチェ》(パドヴァ 1775) に先んじてこの歌詞が使われていたという説がある^{注17}。それについてはどうだ。

8. モルテッラーリ《見棄てられたディドーネ》(1772 あるいは 1775) のリブレットとの関係

鳥代：1772 にフィレンツェで上演されたときのリブレット^{注18}にこの歌詞はありません。

犬輔：一方、1775.11.7 にロンドンのキングズ・シアターで上演されたパスティッチョ《見棄てられたディドーネ》^{注19} はサッキーニの選定によりフェリーチェ・ジャルディーニ、ミケーレ・モルテッラーリ、アントーニオ・サッキーニの曲で構成されていて、表 7 のレチタティーヴォとアリアがモルテッラーリの曲だと言われています^{注20}。《アルサーチェ》のアリアと歌詞が異なる部分を赤字にしました（レチタティーヴォは丸ごと異なるので赤字にはしていません）。また、役は男性ではなく、女性なので、それらしく翻訳を変えました。

表 7 モルテッラーリ「その恩知らずは私から離れたでしょうか？／あなたたちを残して行きます」

<p>Didone</p> <p>E mi lasciò l'ingrato? Ebbe cor di tradirmi! O sorte mia tiranna!</p> <p>Ah consola tu almeno in quest'istante, Soccorri per pietà quest'alma amante. E tu cara Germana un pegno estremo Del tuo affetto mi dona.</p> <p>Ah che la mia costanza or m'abbandona. Io vi lascio, e questo addio Se sia l'ultimo non so: Ah, chi sà, se l'idol mio Io mai più lo rivedrò. Vado, oh ciel, che affanno! oh pene! Per te sol mio ben pavento, Il più barbaro tormento Giusti Dei chi mai provò!</p> <p>(Parte con Selene.)</p>	<p>ディドーネ</p> <p>その恩知らずは私から離れたでしょうか？ 彼はあえて私を裏切ったのです！ おお、運命の暴君よ！ ああ、少なくともこの瞬間だけは自分を慰め、 この愛する魂を哀れみから助けてください。 そして、親愛なる妹よ、あなたの愛情の 最高のしるしを私に与えてください。 ああ、私の意志の強さは今私を見捨てています。 あなたたちを残して行きます、これでお別れです これが最後になるかはわかりません： ああ、彼が私の恋人かどうか誰にも分からない もう二度と彼に会うことはないでしょう。 私は行きます、天よ、なんという不安！ この辛さ！ あなただけが心配です、いとしい人よ、 これ以上の野蛮な苦痛を、 正義の神々よ、だれが味わったのですか！ ([妹の] セレーネと退場)</p>
---	--

鳥代：場面はトロヤの英雄エネア（アイネイアス）と恋に落ちたカルタゴの女王ディドーネが、新たな国を建設すべくイタリアへ旅立つ英雄に棄てられて歌います。物語はディドーネに求愛し続けるムーア人の王ヤルバの奸計、ディドーネの妹セレーネのエネアへの秘められた恋、また、腹心の部下たちの裏切りなどが渦巻きます。

教授：推測すれば《アルサーチェ》がパドヴァの見本市で 1775.10 に初演されるに先立つある日、モルテッラーリのところにキングズ・シアターから 1775.11.7 に上演することになるサッキーニ編集のパスティッチョ《見棄てられたディドーネ》の知らせが届いた。サッキーニ側はモルテッラーリが 1772 に《見棄てられたディドーネ》を作曲していたことを知っていて、そこからの曲を念頭に依頼したのだろう。だが、モルテッラーリは手元のアリア「私はお前を残して行く」（表 4）が気に入っていたのだろうね。それを「あなたたちを残して行きます」（表 7）に歌詞を手直しして、新しいレチタティーヴォを付けて送り届けたのではないか。こういうストーリーが考えられるということだね。

犬輔：そうです。アリアは曲をそのまま流用しましたが、レチタティーヴォは同じ曲に新しい歌詞を乗せて、伴奏を少し変えているようです^{注21}。

教授：因みにパスティッチョ《見棄てられたディドーネ》でディドーネを歌ったのはカテリーナ・ガブリエーリ、エネアを歌ったのがヴェナンツィオ・ラウツィーニ（エクスルターテ・ユビラーテを歌った）、セレーネがフランチェスカ・ガブリエーリであった^{注22}

鳥代：歌詞の違いから、モーツァルトが K.255 の手本にしたのは《見棄てられたディドーネ》ではなく、《アルサーチェ》の方だというのは決まりですね。

教授：蛇足だが、フェルディナンド・ベルトーニ Ferdinando Bertoni (1725-1813) の《アルタセルセ》（フォルリ 1776）にはモルテッラーリの「私はあなたを残し、別れを告げます Io ti lascio e parto addio」の歌詞および曲がそのまま流用されている（レチタティーヴォは不詳）^{注23}。

犬輔：さらに言うなら、ヨーゼフ・シュスター Joseph Schuster (1748-1812) の《見棄てられたディドーネ》（ナポリ 1776）第 3 幕第 5 場では男性のエネアが歌うアリアとして表 4 と表 7 の歌詞が入り混じったものとなっています^{注24}。ただし、レチタティーヴォの歌詞・曲とアリアの曲は全く新しいものです^{注25}。

鳥代：モルテッラーリのアリアはクラヴィア伴奏版のロンドー Rondeau 「私はお前を残して行く、これで別れだ」^{注26}や、ルイーダ・パルメリーニ Luigi Stefano Palmerini (1768-1842) の「あなたたちを残して行きます、お別れです」による変奏曲^{注27}にもなり、広く愛唱されていたことが伺えます。

9. モーツァルトの「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255 は何のために作曲されたのか

教授：新モーツァルト全集序文にはこうある。「モーツァルトがこのシーンを作曲した（因みに彼の唯一のアルト声部用コンサート・アリア）相手のアルトのフランチェスコ・フォルティニは、当時イタリアの劇団ピエトロ・ローザに所属していた。ローザの一座は当時ザルツブルクでブッフ・オペラを上演していた。しかし、私たちのシーンのテキストはオペラ・セーリアから来ており、18 世紀のセーリアの標準的な要素であるオンブラのシーンのバリエーションである。オンブラの場面では、亡くなった恋人の影（オンブラ）に別れを告げる。レチタティーヴォとアリアのテキストは、1775 年にパドヴァで上演されたドラマ・ペル・ムジカ《アルサーチェ》（II, 8）の台本からのものである」^{注28}。

犬輔：K.255 は代替アリアでも挿入アリアでもなく、コンサート・アリアだということですね。

鳥代：でもそのような内容のコンサート・アリアが新作で歌われるシチュエーションは考えにくいですね。ローザ座のフェアウエル・コンサートがあったのならそのために書かれた可能性もありますが、そのような催しはシーデンホーフエンの日誌に記述がありません。

教授：では強引でもいいから代替アリアあるいは挿入アリアになりうる演目を挙げてみたまえ。

犬輔：（おずおず）そういえばローザ座の評判がよかった演目で検討していないのはサッキーニ《偽の愛に夢中 il finto pazzo per amore》だけです。でも、これに K.255 が使われたとはとても信じられませんが。

教授：それまで言うならヒントを上げよう。ミラノ・ブレラ国立図書館の「1900 年までの音楽原稿の全国カタログ」の中に、図 3 のカードがある^{注29}。

Mortellari, Michele	Il finto pazzo per amore. Io vi lascio e quest'addio	RECITATIVO, ARIA	S,orch
---------------------	--	------------------	--------

図 3 モルテッラーリ《偽の愛に夢中》からレチタティーヴォとアリア「あなたたちを残して行きます」

犬輔：えっ、モルテッラーリにも《偽の愛に夢中》があり、そこにレチタティーヴォとアリア「あなたたちを残して行きます」が使われているというのですか。大発見ですよ！

鳥代：早速モルテッラーリ《偽の愛に夢中》（1779 ヴェネツィア）のリブレットを調べましょう。ネットで閲覧可能です^{注30}。

犬輔：調べたけど、アリア「あなたたちを残して行きます」は見つからなかったよ（しょぼん）。
 教授：再演の時に改訂されたのかも知れないし、初演での改訂が間に合わなかったこともありうるから、残されているリブレットで挿入が可能な箇所を探してみてもどうか。
 犬輔：分かりました（元気が戻って）。第一幕 第11場が怪しいです。第11場が二つあるので初演の直前に代案の差し替えをためらった痕跡である可能性があります。そのため、最終案のアリア「あなたたちを残して行きます」を印刷しそこなったのかも知れません。
 鳥代：犬輔さん、ちょっと冷静になって。モーツァルトが作曲した代替曲の対象はモルテッラーリの《偽の愛に夢中》ではなく、サッキニーの《偽の愛に夢中》ですよ。リブレットはプレスブルク版（1769）^{注31}が残っていて、その後レーゲンスブルク版（1775）^{注32}に至るまで——表記はインテルメッツォともドランマ・ジョコーゾともされるけれど——改訂されていないので、ザルツブルクでも同じ内容で上演されたものと考えられるわ。
 犬輔：はい、有難うございます。逸る心を鎮めましょう。そのために、まず登場人物4人の役柄を確認しておきましょう。

表8 サッキニー《偽の愛に夢中》の登場人物

配役	役柄
シルヴィオ	羊飼いの、エウリッラの恋人
エウリッラ	女羊飼いの
隊長ドン・ヘラクレス	エウリッラの恋人
ピオンディーナ	酒保の女主人、ドン・ヘラクレスの恋人

鳥代：登場人物の名前がモルテッラーリとは違って、女羊飼いがエウリッラ、その恋人の羊飼いがシルヴィオとなっています。隊長ドン・ヘラクレスは恋人のピオンディーナをさて置いてエウリッラに横恋慕しているのですね。

10. サッキニーの《偽の愛に夢中》への挿入箇所候補案

10.1 第一部第9場のエウリッラのレチタティーヴォとアリアの代替（案）

犬輔：では、先ほどのモルテッラーリ第一幕 第11場ですが、サッキニーのリブレットでは第一部第9場になっています。原作は同じでも、全く別の脚色なんですね。歌詞も殆どがモルテッラーリと異なっています。表9に翻訳しましょう。

表9 サッキニー《偽の愛に夢中》（1769 プレスブルク）第一部 第9場

PARTE PRIMA. SCENA IX. EURILLA, e SILVIO.	第1部 第9場 エウリッラ、シルヴィオ。
Eur. Tu in queste spoglie?	エウリッラ なぜあなたはこのような〔兵士の〕格好をしてるの？
Silv. Sì per tua cagione.	シルヴィオ そう、君のためだ。
Eur. Per me?	エウリッラ 私のため？
Silv. Per te crudele, Piuttosto che lasciarti Perder la libertà.	シルヴィオ 残酷な君のために、 僕は君を離れるんだ。 それどころか自由も失った。
Eur. Povero Silvio!	エウリッラ 可哀想なシルヴィオ！
Silv. Crudelissima Eurilla.	シルヴィオ 残酷すぎるエウリッラ。
Eur. In che t' offesi Silvio mio Silvio bello?	エウリッラ どうして気分を害したの、 シルヴィオ、いとしいシルヴィオ？
Silv. Eh che un sciocco son Io senza cervello.	シルヴィオ ああ、頭脳なしの俺はなんと愚かなのだろう。
Eur. Lo dissi per salvarti Dal furor di colui: tu non udisti Le sue minacce; Ah Silvio Guardami per pietà: facciamo pace Io t'amo più di pria.	エウリッラ 私があれを言ったのは、 あなたを彼の怒りから救うためでした。あなたは彼の脅しを聞きませんでした。ああ、シルヴィオ、同情して私を見てください。仲直りしましょう、私は前よりもあなたを愛しています。
Silv. Eh si scosti di quà vosignoria.	シルヴィオ さあ、ここから離れてくれないかな。
Eur. Caro sono innocente.	エウリッラ いとしい人、私は無実です。

<p>Silv. Non è vero. Eur. Lo giuro. Silv. Non ti credo. Eur. M'ucciderò, mi getterrò da un albero Morrò di fame. Silv. Vada, Vada dal Capitano. Eur. Mà s'è tuo questo core, e questa mano, Credimi Silvio, Silv. Un empia un'infedele Non merita pietade. Eur. Eurilla infida? Bella merce mi rendi Per tanto amor... andate Semplici fanciullette Andate a serbar fede: ecco gl'amanti Come vi trattan poi... Cor di macigno Nò non mi fuggirai: son lo la sola (<i>piange</i>) Padrona di quel cor... Mà oh Dio son vane Le smanie, ed i lamenti, E posso appena articular gl'accenti. Se mi scacci o Silvio bello Sei crudele, sei tiranno E non sai, che dall'affanno Eurilluccia morirà. Ma parlar... Oh Dio... Non posso. Mi disprezza un alma ingrata; Poveretta abbandonata Da chi mai sperar pietà. <i>Eurilla in atto di partire, è fermata da Biondina.</i></p>	<p>シルヴィオ それは本当ではない。 エウリッラ 私は誓います。 シルヴィオ 信じられない。 エウリッラ 自殺します、木から身を投げます、 飢えて死にます。 シルヴィオ 行け、 隊長のところへ行け。 エウリッラ でもこの心とこの手があなたのものなら、 シルヴィオ、信じて。 シルヴィオ 不敬虔な異教徒は 慈悲を受けるに値しない。 エウリッラ 裏切り者のエウリッラですって？ あなたは私にたくさんの愛を込めて 美しい贈り物をくれるものですね… 行きなさい、 素朴な女の子たち、 行って忠誠を守りましょう：その後恋人たちが あなたをどのように扱うか… 堅く閉じた心でしょうか、 いいえ、あなたは私から離れられない：その心の持ち主は 私だけです（泣く）… でも、ああ、神様、 その熱狂も不平も無駄で、 私はほとんど普通に話すことすらできません。 あなたが私を追い払うなら、ああ、シルヴィオ あなたは残酷です、あなたは暴君です そして、あなたが何を心配しているのかわかりません このエウリッラは死んでしまいます。 でも話すことは…ああ、神様…私には無理です。 恩知らずの魂は私を軽蔑します。 かわいそうな見捨てられた者 誰が慈悲を望むでしょうか。 退場しようとするエウリッラをビオンディーナが呼び止める。</p>
---	---

教授：なるほど。このどこにモーツァルトの曲が入ると思うのかね。

犬輔：「その心の持ち主は私だけです Padrona di quel cor.」までをセッコで歌ったあとです。モーツァルトはそこからレチタティーヴォ・アコンパニヤートとアリアに繋げるべく K.255 に差し替えたものと考えます。その際、翻訳は「私はお前を残していく」のままでは使えませんが、女性役らしい訳に変更する必要があります。

10.2 第一部第9場のシルヴィオのレチタティーヴォとアリアの代替（案）

鳥代：わたしはK.255を歌ったのはエウリッラではなくシルヴィオだと思います。表10に第二部第5場を翻訳しましょう。

表10 サッキーニ《偽の愛に夢中》(1769 プレスブルク) 第二部 第5場

PARTE SECONDA. SCENA V. <i>EURILLA, poi SILVIO, indi. Il CAPITANO chè torna.</i>	第二部 第5場 エウリッラ、それからシルヴィオ。その後 戻ってきたキャプテン。
<p>Eur. Io lasciar Silvio mio? Ah prima i Monti Si vedran caminar: prima l'Agnelle Insieme co i Lupi a pascolare andranno. Silv. Mi divora l'affanno; La gelosia mi strugge. Anima mia Qual destino crudele Ci allontana così? Torniamo, o cara, Alle nostre Capanne.</p>	<p>エウリッラ シルヴィオを手放すべきでしょうか？ ああ、山が動くのが見えるでしょう。それは 子羊たちが狼たちと一緒に草を食べに行くところ。 シルヴィオ 心配が僕を消耗させる。 嫉妬が僕を蝕む。我が魂よ、 僕たちをこのように引き離す 残酷な運命とは何だろう？ ああ、いい人、 小屋に戻ろう。</p>

<p>Eur. Mà il modo di fuggir? (ah non tornasse Si presto il Capitan.) Silv. Sai che Biondina Hà promesso aiutarci. Eur. E'vero: (oh Dio Se mi trova con Silvio Milero lui, misera me). Silv. Non parli? Stai confusa, sospesa? Cap. (I Matrimoni Van subito conclusi... Ma che vedo! Quel maledetto pazzo Cosa fà lì colla mia bella?) Eur. Oh Dio! Silvio vanne per ora: Ci rivedremo. Silv. Come! Tu mi discacci? (Oh Cielo Mi tradisse costei Fosse d'altri invaghita.) Cap. Fuggi da questo pazzo (ad EURILLA non veduto da Silvio, sorpresa)</p> <p>Eur. (Ah son spedita) Silv. Giurami almeno ingrata Che tu non ami altri che me. Eur. Non posso. Silv. Come non puoi? Eur. (Che pena Potessi fargli un cenno Potessi dir che il Capitan ci ascolta.) Silv. (Ah chi fù che m'ha tolta La cara Eurilla mia.) (smaniando) Cap. (Costui vaneggia Eurilla bada a te.) (piano come sopra)</p> <p>Eur. (Son disperata.) Silv. Parla. Eur. Parlar non deggio. Silv. (Ch'equivoco parlar... sogno, o vaneggio Che m'accadde? Che fu?) (con furia) Cap. (Fuggi: non vedi, Che s'infuria, tarocca, e sbatte i piedi?) (ad Eurilla.)</p> <p>Silv. Addio: parto per sempre Per non vedetti più.</p>	<p>エウリッラ でも、逃げる方法は？（ああ、隊長がすぐに戻ってこないように） シルヴィオ ビオンディーナが僕たちを助けると 約束してくれたのは知ってるね。 エウリッラ それは本当よ。（ああ、神様、 私がシルヴィオと一緒にいるのを見つけたら、 彼は私を殴るでしょう、私は惨めです） シルヴィオ 黙ってるのか？ 混乱で中断してるのか？ 隊長 （結婚は 直ちに契約されなければならぬ… だが、何たること！ あの狂った男は私のいい人と そこで何をしているんだ？） エウリッラ ああ神様！ シルヴィオ、とりあえず行って。 また会いましょう。 シルヴィオ なんと！ 僕を追い払うのか？（ああ、 もし彼女が他の人に夢中になったら、 彼女は僕を裏切るだろう） 隊長 この狂人から逃げろ。 （シルヴィオに見られないようにエウリッラに、 驚いたふりをして）</p> <p>エウリッラ （ああ、死にそう） シルヴィオ 少なくとも誓ってくれ、恩知らずな人、 僕以外の誰も愛さないと。 エウリッラ できません。 シルヴィオ どうしてできないんだ？ エウリッラ （彼にうなずいて、 隊長が私たちの話を聞いているからと告げるのは、 私にとってどれほど辛いことでしょう） シルヴィオ （ああ、僕の大切なエウリッラを 奪ったのは誰だ） (動揺して) 隊長 （彼は暴れている。エウリッラ、気をつけて） (動揺して)</p> <p>エウリッラ （私は絶望的です） シルヴィオ 話してくれ。 エウリッラ 話すことができません。 シルヴィオ （何という誤解が… 夢が、おお、妄想が、僕に起こった？ 何があったんだ？） (激怒して) 隊長 （逃げろ。見えないのか、 彼は激怒し、偽り、足を踏み鳴らしている？） (エウリッラに)</p> <p>シルヴィオ さようなら。二度とあなたに会わないために、 僕は永遠に去ります。</p>
--	---

<p>Eur. (Ma questo è troppo) Sentimi: non partir. Cap. (Che sciocca Donna Si vuol precipitare.) Si Iv. Le tue Mensogne non vò più ascoltare. Sol ti rammento ingrata, L'Amor mio, la mia fede: In queste spoglie Son ridotto per te, giunsi a impazzire A delirar... per possederti... indegna Vò ascondermi ai Viventi Alla luce del dì... richiamerai Ma tardi tuo Pastore Ahi cruda Donnà, ahi disperato Amore! Nell'età più tenerella Mi giurasti eterno affetto, E il mio core semplicetto Ti giurò costante amor. Or mi lasci in abbandono; Chi potea pensarlo mai! Semplicetto m'ingannai Nel donarti questo cor.</p> <p style="text-align: right;">(parte.)</p>	<p>エウリッラ (でも、これはやりすぎだわ) 聞いて、そこを離れないで。 隊長 (なんという愚かな女に 陥ろうとするのだ) シルヴィオ もうお前の嘘は聞きたくない。 お前を恩知らずとだけ覚えておく。 僕の愛、僕の忠誠よ。これらの抜け殻の中で 僕はお前のために墮落し、気が狂い錯乱して しまった… お前を所有するには… ふさわしくない。 日の光の当たる生活から 身を隠したい… お前がまたお前の羊飼いを 呼び戻そうとしてもまあ手遅れだろう ああ、残酷な女性よ、ああ、絶望的な愛よ！ 一番優しい頃 お前は永遠の愛情を僕に誓った。 そして僕の素朴な心は お前に変わらぬ愛を誓った。 今、お前は僕を見捨てて行く。 誰が予測できたろうか！ 単純な男よ、間違いだったのだ この心をお前に贈ったのは。</p> <p style="text-align: right;">(退場)</p>
---	---

犬輔：鳥代さんの案は分かりました。あくまでも男性役が歌うということから、シルヴィオの最後のレチタティーヴォとアリアを K.255 と入れ替えるのですね。

10.3 第一部第1場のあとにシルヴィオが単独でレチタティーヴォとアリアを歌う場を挿入(案)

教授：たまには私の案も議論に加えてもらいたい。諸君たちは物語の煮詰まった場を選んでいますが、物語が始まってすぐの第一部第1場はどうだ。この台本は話の進むのが早いので別離もすぐに到来する。では表11を見てもらいたい。

表11 サッキニー《偽の愛に夢中》(1769 プレスブルク) 第一部 第1場

PARTE PRIMA. SCENA I.	第一部 第1場
<p>Campagna con diverse Tende militari, a mano destra un Padiglione per il Captano.</p> <p><i>Nell' aprirsi del telone si vedranno diversi Soldati sparsi per il campo, alcuni mangiando, altri giocando, ed altri dormendo. Il Capitano D Ercole nel suo padiglione seduto a tavola con altri ufficiali, a Biondina che lo serve; indi Eurilla, e Silvio, che vengon condotti prigionieri da un Sargente con una partita di Soldati.</i></p> <p>Bion. Come salta, come brilla Questo vino nel bicchiere, (porgendo il bicchiere al Capitano.) Così il sangue mi zampilla Così il cor brillando va. Cap. Più del vino quell' occhietto Fà Fumare il mio cervello, Fà brillar quest' alma in petto, a2 Viva Marte vincitore Viva Bacco, eviva amore, Che tal gioja al cor ne a. Eur. Dove mai mi conducete Dove mai per carità. (a Soldati)</p>	<p>軍用テントがいくつかある田園地帯、右手には隊長用の大天幕。</p> <p>幕が開くと、キャンプの周りに数人の兵士が散らばっており、ある者は食事をし、ある者は遊び、ある者は眠っているのが見える。大天幕でドン・ヘラクレス隊長は士官たちとテーブルに座り、ビオンディーナが給仕する。そして、エウリッラとシルヴィオが軍曹と兵士のグループに捕虜として連れて来られる。</p> <p>ビオンディーナ このワインは泡がよく飛び跳ねて、 グラスの中で輝いている、 (隊長にグラスを手渡す)</p> <p>私の血は湧き出て、 心が輝いてきます。 隊長 その小さな目は私の脳を ワインよりも沸き立たせ、 この魂を私の胸に輝かせる。 二人で 戦いの勝利者万歳 バックス万歳、恋愛万歳、 そんな喜びが私の心にありますように。 エウリッラ いったいどこに連れて行くの、 どこなの、後生だから。(兵士たちに)</p>

Silv.		シルヴィオ	
Scellerati quanti siete		なんて邪悪な奴なんだ	
Qualchedun la pagherà.		誰かが報復するぞ。	
Cap.		隊長	
Alto là, che imbroglio è questo?		それじゃ、これが誤魔化しだとも？	
Bion.		ビオンディーナ	
Una Femina in arresto!	(alzandosi)	ご婦人が逮捕されている！	(立ち上がって)
a2		二人で	
Qualche strana novità.		奇妙なことばかり。	
Eur.		エウリッラ	
Un'Onesta Pastorella		正直な羊飼いです、	
Silv.		シルヴィオ	
Un Pastore, ch'è innocente		潔白な羊飼いだ、	
a2		二人で	
Deh lasciate iniqua gente		ああ、不当な二人を	
Nella loro libertà.		自由にしてください。	
a4		四人で	
Siate affabile, ed umano	(al capitano)	愛想がよく、人道的、	(隊長に)
Deh movetevi a pietà.		同情心を示します。	
Qui commanda il Capitano		ここでは隊長が責任者であり、	
E ingiustizia non si fa.		不正は行われません。	
Cap.		隊長	
Qual'è il vostro delitto?		お前の犯罪は何であるか？	
Siete spie de Nemici? Sei tu forse	(a Silvio)	敵のスパイであろう？ さしずめ (シルヴィオに)	
Un ladro, un disertore?		泥棒か脱走兵だろうが？	
Silv.		シルヴィオ	
Mi basta la metà del suo favore.		その好意の半分で僕には十分だ。	
Un pastorel son io...		僕は羊飼いだ...	
Cap.		隊長	
Taci balordo		黙れ、バカ、	
Tu parli troppo.		しゃべりすぎだ。	
Silv.		シルヴィオ	
Appena		話し始めた	
Signore, ó incominciato.		ばかりですよ。	
Cap.		隊長	
Fatti fatti e non ciarle ama il Soldato.		何も言わずにやれ。兵士を愛せよ。	
Biondina da fumar.	(si pone a sedere)	ビオンディーナ、煙草にしよう。	(座る)
Bion.		ビオンディーナ	
La servo.	(parte.)	かしこまりました。	(退場)
Eur.		エウリッラ	
(OH quanto		(ああ、彼はなんて	
Costui mi fa paura)		私を怖がらせるのでしょう)	
Silv.		シルヴィオ	
(Io temo solo		(僕が恐れているのは	
Per la mia pastorella.)		羊飼いの少女のことだけだ)	
Cap.		隊長	
(Coi... colei mi par vezzosa, e bella,)	(guardando Eurilla)	(彼女は... 魅力的で美しいようだな)	(エウリッラを見ながら)
Silv.		シルヴィオ	
Dunque sappia...		だから分かって欲しい...	
Cap.		隊長	
Quel dunque		だから、よく残されて	
Si potea risparmiare: lo stil laconico		いたものだ。質素なスタイルは	
È il mio stil familiare		私の慣れ親しんだスタイルである。	
Silv.		シルヴィオ	
(Io non intendo		(一体全体誰が何を言っているのか	
Che diavolo si dica)		分からない)	
Bion.		ビオンディーナ	
Eccole da fumar	(Biondina gli reca una pipa)	さあ、タバコです。	(ビオンディーナがパイプを持ってくる)
Eur.		エウリッラ	
Sorte nemica.		最悪の運命だわ。	
Bion.		ビオンディーナ	
Si sa qual è il motivo		彼らの逮捕の理由が何か	
Del loro arresto?		分かっているのですか？	

Cap. E'un'ora Che costui clarla, e non si spiega ancora. Eur. E ben, sa lo permette Il Signor Capitano Parlerò Io... Cap. Parlate Bellissima ragazza. Eur. Ora mi spieg In semplici parole Come frà Ninfe, e frà Pastor si suole. Mentre l'amato pregge Pascolando men giva Venner costoro, non sò ben s'io dica Assassini ò Soldati. Cap. (Ah quanto è cara! Che bel labro vermiglio! Che volto sovr'umano!) (sospirando.) Bion. (La guarda un poco troppo il Capitano). Eur. Due de più bianchi agnelli Volean rapirmi a forza: alzai le grida I Pastori chiamai: Silvio con alteri Sen venne in mio soccorso. Silv. Io son Silvio... Cap. Taci bestia... seguite (ad Eurilla.) Alfin che cosa avvenne? Eur. Alfin quest' empi Abbandonar la preda; mà adirati E con Silvio, e con me, perche ciascuno Fè per propria difesa i sforzi suoi Ci condussero quà dinanzi a voi. Cap. Ah furfanti poltroni Voglio farvi provare (ai Soldati) Cos'è la disciplina militare. Bion. Col Signor Capitano Non si scherza. Eur. Tenuti Siamo al vostro bel core. Silv. Dunque partiamo... (ad Eurilla) Cap. Dunque non Signore. Io voglio che rimanga, Frà noi tutt'oggi Eurilla Tu pur vi rimarrai. Bion. (Ah ch'io mi sento Il core divorar da gelosia.) Silv. Alla capanna mia Signor tornar vorrei... Vorrei ch'Eurilla Meco tornasse... Mà qual legge è questa Ch'io non possi parlar? Dunque... (adirato)	隊長 この男は1時間もしゃべっておるが、 まだ自分のことを説明できておらん。 エウリッラ それで、よろしければ 隊長さん 私が話します... 隊長 話せ、 美しい女の子よ。 エウリッラ では、私が ニンフ仲間と牧人仲間が使い慣れた 簡単な言葉でご説明しましょう。 愛する人が、羊の世話を休憩にして、 お祈りをしている最中に、 殺人者と呼んでいいのか兵士と呼んでいいのか 分からない男たちがやってきました。 隊長 (ああ、なんて可愛いんだろう！ なんとも美しい赤い唇だ！ なんて超人的な顔なんだ！) (ため息をついて) ピオンディーナ (隊長は少し彼女を見すぎている) エウリッラ 最も白い子羊の二匹が私を 力づくで誘拐しようとしたのです。私は叫び声を 上げて羊飼いたちを呼びました。誇り高い シルヴィオが私を助けに来てくれたのです。 シルヴィオ 僕がシルヴィオです... 隊長 黙れ、この野郎... 続けよ (エウリッラに) 結局どうなった？ エウリッラ 結局、これらの邪悪な人々は 獲物を放棄しました。でも、シルヴィオにも 私にも腹を立てました。なぜなら、 私たちがそれぞれ必死に自分を守ったからです。 そしてあなたの前に連れて来られました。 隊長 ああ、怠惰な悪党どもよ、 軍紀とは何かを (兵士たちに) 体験してもらいたい。 ピオンディーナ 隊長さんを からかわないでくださいね。 エウリッラ ご配慮に 感謝いたします。 シルヴィオ では出発しよう... (エウリッラに) 隊長 そうはいかん。 このままでいろ。 エウリッラは今日 私たちのところに残れ。 ピオンディーナ (ああ、心が 嫉妬に蝕まれていく気がする) シルヴィオ 僕は小屋に戻りたい、 隊長、帰りたい... エウリッラも一緒に 帰って欲しいのですが... 僕が話せない決まりとは 何でしょうか？ だから... (怒って)
---	--

<p>Cap. In arresto Dunque adesso n'andrai; In una delle tende Costui venga guardato. Eur. (Povero Silvio mio) Silv. (Son disperato.) Senza noi l'amato gregge Chi all' ovile condurrà. Pecorelle poverelle Nò per voi non v' è pietà. Cara Eurilla tu qui resti Ed io parto, e vivo in pene. Perche toglierici quel bene Che si chiama libertà.</p>	<p>隊長 逮捕されているのだ だから今、お前は行くのだ テントの一つで こいつをチェックするのだ。 エウリッラ (かわいそうなシルヴィオ) シルヴィオ (絶望的だ) 僕らのいない最愛の群れを 誰が囲いの中に導くのか かわいそうな羊たち。 お前たちに容赦はない。 いとしのエウリッラ、君はここにいて、 僕は去り、そして苦しみながら生きる。 なぜ自由という名の よき人を奪うのか。</p>
---	--

鳥代：この場の最後のアリアと K.255 のレチタティーヴォとアリアと入れ替えるのですね。でも喜劇的対話とは相容れない深刻さがあって、繋がりそうもありませんが。

教授：私の案はそこで入れ替えるのではない。シルヴィオが第一部第 1 場の次に登場するのは第一部第 4 場であるから、この間のどこかに新しい場を挿入し、そこでシルヴィオが単独でレチタティーヴォとアリア K.255 を歌うというのが私の案だ。

11. フランチェスコ・フォルティーニはどのように歌ったのか

犬輔：ところで、フランチェスコ・フォルティーニに関して疑問があります。多くの文献に「バイエルン選帝侯殿下の宮廷名手 Virtuoso di Camera di S. A. l'Elettore di Baviera」と書かれています^{注 33}。しかし一座の歌手が宮廷に所属しているとは考えられません。

鳥代：その称号が書かれているのはインスブルックのリブレットだけですけどね^{注 34}。

教授：マントヴァ公、モーデナ公、トスカナ大公は重要な歌手を宮廷に呼び、称号を与え、歌手たちは他の都市のオペラハウスに出演する際にもその称号を名乗った。またバイエルン選帝侯、ザクセン選帝侯、プファルツ選帝侯などのドイツ貴族も、交渉人を通じてイタリアで若いカストラートを雇い入れ、自国の宮廷で訓練させたということだ^{注 35}。称号ゆえ解雇後も使用可能だったのだろう。

犬輔：フォルティーニはブッフアが主体の一座でどのような立場だったのでしょうか。

教授：それは非常にいい質問だ。

鳥代：調べられる範囲内ですが、フォルティーニはドランマ・ペル・ムジカ (5 例) では当然ながら男性役、ドランマ・ジョコーゾ (4 例)^{注 36}でも男性役を歌っています。

犬輔：いやな予感がしてきた。ぼくはドランマ・ジョコーゾではカストラートが女性役を異性装 (男性が女装して演じる) で歌うものとばかり思っていました。もっとも異性装の女役はヴィンチの《アルタセルセ》(1730) でお目にかかって以来ですから、オペラ・セーリアですら時代的に古い演奏スタイルになっていたんでしょうね^{注 37}。ということはドランマ・ジョコーゾでカストラートが男性役を歌うときは楽譜を基本的にオクターヴ上げて歌っていたのですね。その際、装飾を即興で付けたかどうかまでは不明だけど。

鳥代：ということは、犬輔さんの案 (表 9) を適用しようとする、それまでの上演でシルヴィオ役を歌っていたフォルティーニが、モーツァルトの代替曲を適用する上演ではエウリッラ役を歌うことになり、それに伴ってシルヴィオ役を別の歌手が担当しなければならないという困難な状況に陥ることになるわね。

犬輔：お言葉ですが、鳥代さんの案 (表 10) は裏切った恋人を未練がましく見限る別れです。K.255 の歌詞は愛し続けている恋人との別れですからやはり適用に無理があるのでは？

教授：そこで私の案 (表 11) は愛する恋人との別れのダメ押しである。テキストが旧様式 (オペラ・セーリア) であって、曲をどう書いても新様式 (ドランマ・ジョコーゾ) とぶつかってしまうゆえ、新しい場を挿入して歌うことがぶつかり合いを緩和することにもなる。見方を変えればそれを指してコンサート・アリア風に歌ったと言えるかもしれない。

鳥代：K.255 がコンサート・アリアだという従来説が再解釈で生き残れるということですか。

犬輔：ザルツブルクでのオペラ最終日には《偽の愛に夢中》が上演されました。フェアウエル上演ゆえに K.255 が挿入されたという可能性もあります。もしこの上演をシーデンホーフェンが観に行けていたら「フォルティーニはオペラの下でロンドー風のアリアを歌った Unter der Oper spielte Castrat Fortini eine Arie en Rondeau.」と日誌に書いたかも知れませんね。

11. 楽曲構成

鳥代：では、モーツァルトのアリアの楽曲構成を表12に纏めましょう。

表12 モーツァルト「私はお前を残していく」の構成

小節	詩行	調性	形式
24-28	Io ti lascio, e questo addio, se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	F	Andante moderato
29-36	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò. ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか、ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか。	F-g-F	
37-46	Vengo, oh ciel! vengo, deh lascia, oh ciel! deh lascia, oh pene! Per te sol, mio ben, pavento, per te sol, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！ 私は行く、あの人は残る、天よ、あの人は残る、ああ、この辛さ！ お前だけが心配だ、いとし人よ、お前だけが心配だ、いとし人よ、	F-C-g-C-e	
47-56	Il più barbaro tormento, il più barbaro, barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、これ以上の野蛮な、野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ！	f-c-Es-g-c-g-a	Allegro Assai
57-62	Vengo, oh ciel! deh lascia oh pene! 私は行く、天よ！ あの人に残る、ああ、この辛さ！	a-d	
63-74	Il più barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ！	a-e-d-c-e-c-C	
75-79	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	F	Andante moderato
80-87	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, ah chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò. ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか、ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか。	F-g-F	
88-97	Vengo, oh ciel! Vengo, deh lascia, oh ciel! deh lascia, oh pene! Per te sol, mio ben, pavento, per te sol, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！ 私は行く、あの人は残る、天よ、あの人は残る、ああ、この辛さ！ お前だけが心配だ、いとし人よ、お前だけが心配だ、いとし人よ、	B-F-g-a-C	
98-107	Il più barbaro tormento, il più barbaro, barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、これ以上の野蛮な、野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ！	f-As-f	Allegro Assai
108-115	Vengo, oh ciel! deh lascia, oh pene! Per te sol, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！ あの人に残る、ああ、この辛さ！ お前だけが心配だ、いとし人よ、	d-F	
116-131	Il più barbaro tormento, il più barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ！	g-d-g-d	
132-136	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	F	Andante moderato
137-142	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, ah chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò. ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか、ああ、誰が知っているだろう、いとし人、	g-F-g-F	Allegretto
143-152	Vengo, oh ciel! deh lascia, oh pene! Sol per te, mio ben, pavento, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！ あの人に残る、ああ、この辛さ！ お前だけが、いとし人よ、心配だ、いとし人よ、心配だ、	d-F	Allegro assai
153-156	Il più barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、	F	
157-165	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so, se sia l'ultimo non so, se sia l'ultimo non so, 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ、これが最後になるかはわからぬ、	F	Andante moderato
166-173	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, se mai più ti rivedrò, ti rivedrò. ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか、またお前に会えるのか、お前に会えるのか。	F	Allegro Assai

犬輔：随分複雑な構成になっているんですね。「ロンドー風のアリア Aria en Rondeau」というのはこの構造のことだったんですね。

鳥代：基本的には A (adt.m) – B (allo.a) – A' (adt.m) – B' (allo.a) – A" (adt.m+allt) – B" (allo.a) – A''' (Adt.m+allo.a) という構成で、調性の選択も含めかなりの労作です。

教授：曲自体に妥協はないね。オペラ・セーリア用のアリアとしても伝統を突き抜けている。モルテッラーリの構成と比べるとよく分かると思う。

犬輔：それでは、モルテッラーリのアリアの楽曲構成を表 13 に示します。

表 13 モルテッラーリ「私はお前を残していく」の構成

小節	詩行	調性	形式
5-8	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	A	♩ Andante
9-14	Ah! chi sà, bell'idol mio se mai più ti rivedrò? se mai più ti rivedrò? ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか、またお前に会えるのか。	A-a	
15-25	Vengo vengo oh! ciel! oh! ciel! deh, lascia! deh, lascia! oh pene! oh! ciel! deh, lascia! oh pene! 私は行く、天よ！天よ！あの人は残る、あの人は残る、ああ、この辛さ！天よ！あの人は残る、ああ、この辛さ！		
26-33	Per te sol per te sol mio ben, pavento, per te sol mio ben, pavento, お前だけが、お前だけが、心配だ、いとし人よ、お前だけが、心配だ、いとし人よ、	A	Allegro
34-38	Vengo oh! ciel! che pena! oh! ciel! che pena! 私は行く、天よ！とても辛い！天よ！とても辛い！	a-e-A (バス 46/47 小節の f は fis と解釈)	
39-48	Il più barbaro tormento giusti Dei! chi mai provò? giusti Dei! giusti Dei! chi mai provò. これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ？正義の神々よ、だれが味わったというのだ、		
49-52	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	A	Primo tempo
53-58	Ah! chi sà, bell'idol mio se mai più ti rivedrò? se mai più ti rivedrò? ああ、誰が知っているだろう、いとし人、またお前に会えるのか？ またお前に会えるのか？		
59	Io ti lascio, 私はお前を残して行く、		
60-64	Ah! chi sa se mai più ti rivedrò? se mai più ti rivedrò? ああ、誰が知っているだろう、またお前に会えるのか？ またお前に会えるのか？		

鳥代：第 2 節の 1 行目をアンダンテの部分で先取りし、アレグロ部分では第 2 節の 1 行目と 2 行目を逆にしていますよ。これにより、第 2 節の 1 行目が繰り返して歌われることとなります。このように伝統的ダ・カーポ形式はそのまま、欲しい効果を得る工夫が施されているのですね^{注 38} (Rondo あるいは Rondeau という名称は作曲者ものではありません)。

11. まとめ

鳥代：レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255 はザルツブルクに滞在中のカーポ・コミコ (喜劇座長) ピエトロ・ローザが率いるイタリア一座のアルト・カストラート歌手フランチェスコ・フォルティエニが (楽譜よりオクターヴ高く) 歌うサッキエニのドランマ・ジョコーゾ (インテルメッツォ) 《偽の愛に夢中》(1776.9-1776.10 に上演) のシルヴィオ役のために、挿入曲として (アルト本来の音程で) 作曲されたものだと考えられます。筆写譜を渡して自筆譜を手元に残したのは、コンサート・アリアとしての転用を想定してのことだったであろうことが後の手紙から伺えます。

犬輔：歌詞はミケーレ・モルテッラーリ《アルサーチェ》(パドヴァ 1776) の楽譜から採られていますが、楽譜がどのようにしてザルツブルクに伝わったのか不明とされています。そこでぼくはこう考えます。フォルティエニはドランマ・ジョコーゾの男役のお仕着せ曲ばかりではカストラートとして“役不足”のため、“身の丈にぴったり合った”新作の代替曲が欲しいと常々思い、公言していた。そこにパドヴァ新劇場の旧知の関係者からテンドウウッチが歌ったモルテッラーリのレチタティーヴォとアリアの話が入り、楽譜を取り寄せた。しかし、その音域は cis'-fis"であり、アルトには高すぎた。そこでモーツァルトに同じ歌詞でアルト用の曲を作曲するよう依頼したものと思われます。そして音域が g-d"の K.255 が作曲されたのでしょう。

教授：モーツァルトは K.255 でドランマ・ジョコーゾへのオペラ・セーリア様式 (すなわち単なるダ・カーポ形式、あるいは協奏曲形式のアリア) の導入を試みることをせず、まったく新しい「ロンドー風アリア Aria en Rondeau」という形で解決した。本格的な「ロンド Rondo」(アリアと言う名称が付かない) はヴィーン時代の後半、1786 年以降を待たなければならぬ^{注 39}。

注 1 : Kunstsammlungen der Veste Coburg, Signatur: V.1109.2 ∞

注 2 : Küster (2002). NMA II/7/1-2: Arien, Szenen, Ensembles und Chöre mit Orchester · Band 1 und 2, Kritischer Bericht ∞

注 3 : Schidenhofen, Joachim Ferdinand von (2006). Ein Freund der Mozarts, Die Tagebücher des Salzburg Hofrats (Herausgegeben und kommentiert von Hannelore und Rudolph Angermüller unter Mitarbeit von Günther G. Bauer), Verlag K. H. Bock, 2006

注 4 : 西川尚生 (2005). 『作曲家◎人と作品 モーツァルト』音楽之友社

注 5 : Amore ingegnoso o sia La giovane scaltra. Dramea giocoso per musica da rappresentarsi nel Teatro Obizzi il carnevale dell'anno 1775. Umiliato a sua eccellenza [...] conte Gio. Benedetto Giovanelli capitano, V. podestà di Padova. · Padova: Stamperia Penada, [1775]. (Sartori 1990 01700) ∞

- 注 6 : Einstein, Alfred (1937). Mozart et l'opéra bouffe a Salzburg, in: Revue de Musicologie, T. 18, No. 61 (1937), pp. 1-4 ∞ およびリブレットを参照した。
- 注 7 : 前掲 Schidenhofen (2006), p.179
- 注 8 : I due viaggiatori francesi. Drama giocoso per musica da rappresentarsi nel Imperiale Regio Teatro d'Innsbruck nell'autunno dell'anno 1776. Umiliato alle gentili nobilissime dame, ed egregi nobilissimi cavalieri. - Innsbruck: Stamperia di Corte, [1776]. (Sartori 1990 08599) ∞
- 注 9 : 前掲 Schidenhofen (2006) では「オペラは平凡であった die opera Mittlmässig」(1776.8.27) と評価されている。
- 注 10 : Kunze (1968). NMA II/7/2: Arias, Scenes, Vocal Ensembles, and Choirs with Orchestra vol. 2, Score ∞
- 注 11 : Padova Fiere ∞
- 注 12 : Arsace. Drama per musica da rappresentarsi nel nobilissimo nuovo Teatro di Padova la Fiera dell'anno 1775. - In Venezia: appresso Modesto Fenzo, 1775. (Sartori 1990 02882) ∞
- 注 13 : レチタティーヴォのみ Lübeck, (D-LÜh) Mus. Q 263 ∞、レチタティーヴォとアリア Dresden, (D-DI) Mus.1-F-49,4-6 ∞ (レチタティーヴォは前者の歌詞がリブレットに忠実)
- 注 14 : Einstein, Alfred (1962). Transl. Arthur Mendel, Nathan Broder. Mozart, His Character, His Work, Oxford University Press, 1962, p.361 ∞
- 注 15 : Warburton, Ernest (1980). The New Grove Dictionary of Music & Musicians ed. Stanley Sadie, Vol.1, Macmillan Publisherr, 1980, p.872 for T250/2 (W G20) and p.874 for T250/2 (W LG2).
- 注 16 : 歌詞は J.C.BACH: MOZART: Complete Concert Arias with obligati instruments, Hjordis Thebault (soprano), Solamente Naturali, Talpai, Brilliant Classics, 2011 の CD booklet から。
- 注 17 : Waldersee, Paul Graf von (1905). [ケツヒエル第 2 版] Ludwig Ritter von Köchel: Chronologisch-thematisches Verzeichniss sämmtlicher Tonwerke Wolfgang Amade Mozart's. Nebst Angabe der verloren gegangenen, angefangenen, übertragenen, zweifelhaften und unterschobenen Compositionen desselben. Breitkopf & Härtel, 2. Auflage, bearbeitet und ergänzt, Hrsg. von Paul Graf von Waldersee, Leipzig 1905. ∞
- 注 18 : La Didone abbandonata. Drama per musica da rappresentarsi nel Teatro Formagliari il carnovale dell'anno 1753. - Bologna: per il Sassi successore del Benacci, [1752]. (Sartori 1990 07803) ∞
- 注 19 : Didone abbandonata. A serious opera written by Metastasio as performed at the King's Theatre in the Hay-Market. The music by the most celebrated composers under the direction of signor Sacchini. - London : T. Cadell, [1775]. (Sartori 1990 07838) ∞
- 注 20 : Burden, Michael (2007). Metastasio on the London Stage, 1728 to 1840: A Catalogue, in: Royal Musical Association Research Chronicle No. 40 (2007), pp. iii, v-xi, xiii-xix, 1-332, Taylor & Francis, Ltd. ∞
- 注 21 : RISM ID no.: 456015469 の Incipits から判断。∞
- 注 22 : 前掲 Didone abbandonata リブレットによる。因みにカテリーナ・ガブリエーリがカタリーナ・カヴァリエーリ (ジルバークラング嬢、ドンナ・エルヴィーラ役) と、妹のフランチェスカ・ガブリエーリがアドリアーナ・フェッラレーゼ・デル・ペーネ (再演のスザンナ役、フィオルディリージョ役) と同一視されるのは間違い。彼女らがモーツァルトの曲を歌った記録はないようだ。神戸モーツァルト研究会 第 291 回例会 2022.9.4 を参照 ∞
- 注 23 : RISM ID no.: 850004969 の Incipits から判断。∞
- 注 24 : Didone abbandonata. Dramma per musica da rappresentarsi nel real Teatro di S. Carlo nel dì 12 gennaio 1776 per festeggiarsi la nascita di s.m. il re Ferdinando IV nostro amabilissimo sovrano, ed alla medesima M.S. dedicato. - Napoli: Francesco Morelli, 1776. (Sartori 1990 07842) ∞
- 注 25 : Nel Teatro di S. Carlo 1776 / La Didone abbandonata / Recit.vo e Rondo / Io vi lascio, e quest'addio / Del Sig.re D.n Giuseppe Schuster / Sassone [MANOSCRITTO] ∞
- 注 26 : Michele Mortellari: Rondeau ∞
- 注 27 : Variazione [on "Io vi lascio e questo addio" from "Didone" by Michele Mortellari] Composed By – Luigi Palmerini ∞
- 注 28 : 前掲 Kunze (1968). NMA II/7/2
- 注 29 : Biblioteca Nazionale Braidense, Ufficio Ricerca Fondi Musicali, National catalogue of music manuscripts to 1900 ∞
- 注 30 : Il finto pazzo per amore, opera buffa a sette voci da rappresentarsi nel Teatro dell'eccellentissima Casa Grimani a S. Gio: Grisostomo il carnevale dell'anno 1779. (Sartori 1990 10661) ∞
- 注 31 : Il finto pazzo per amore. Intermezzo per musica a quattro voci. - Presburgo: Gio. Michele Landerer, 1769. (Sartori 1990 10653) ∞
- 注 32 : Il finto pazzo per amore. Drama giocoso da rappresentarsi nel Teatro di Ratisbona per ordine di sua altezza serenissima il principe regnante della Torre e Tassis, principal-commissario della dieta Imperiale etc. etc. etc. Le fou deguise' par amour [...]. - [Ratisbona: 2. metà 18. sec.]. (Sartori 1990 10649) ∞
- 注 33 : 前掲ケツヒエル第 2 版で言及なし。前掲 Einstein, Alfred (1937) にあり。また Einstein, Alfred (1947). [ケツヒエル第 3 版] Ludwig Ritter von Köchel: Chronologisch-thematisches Verzeichniss sämmtlicher Tonwerke Wolfgang Amade Mozart's. Nebst Angabe der verloren gegangenen, angefangenen, übertragenen, zweifelhaften und unterschobenen Compositionen desselben. Breitkopf & Härtel, 3. Auflage, Ann Arbor 1947, Hrsg. von Alfred Einstein, XLIX, 1052 S にあり。
- 注 34 : 前掲 I due viaggiatori francesi
- 注 35 : wikipedia: Kastrat ∞
- 注 36 : 本稿表 2 の演目。
- 注 37 : 神戸モーツァルト研究会 第 280 回例会 2021.10.3 を参照。∞
- 注 38 : モーツァルトは K.74b で第 2 節を歌う前に第 1 節の 2 行を歌って詩行のアンバランスを解消する工夫をしていた。神戸モーツァルト研究会 第 292 回例会 2022.10.2 を参照 ∞
- 注 39 : 松田聡『モーツァルトのオペラ 全 21 作品の解説』音楽之友社、2021、260 頁

(作成：2023 年 10 月 22 日、改訂：2023 年 11 月 10 日)

付録：アリア「私はお前（あなたたち）を残して行く」の系統樹

